

# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



秋色に染まるもみじ  
(11月15日 大教会神苑で)

教祖130年祭に向かって

三年千日 さあ！ おたすけ  
祈る 動く つなぐ



秋季大祭講話

世界一れつをたすける

親心に近づこう

大教会長様 お話

立教177年笠岡大教会秋季大祭は10月21日、大教会長様祭主のもと、役員・教会長・よぶぼく・信者、多数参拝の中、執り行われた。大教会長様は神殿講話で、立教のご宣言の中から「世界一れつをたすけるために」という言葉に込められた親神様の思いを縷々話され、最後の教えとしての道の信仰者として、私たちのあるべき祈りの姿勢をお話しくだされた。要旨は次の通り。

(括弧内は編者補足)

●立教の縁起

今から177年前、「我は元の神・実の神である。この屋敷にいんねんあり。このたび、世界一れつをたすけるために天降った。みきを神のやしるに貰い受けたい。」という一言によってこの道が始まりました。

た。

これについては、『教典』に親神は、この(人間元初まりの)真実を明かし、一れつ人間に陽気ぐらゝいへの道を教えようとて、教祖をやしるとして表に現れられた。即ち、最初産みおろしの子数の年限が経つた暁は、元のやしきに連れ帰りの神として拝をさせようとの、元初りの約束に基く。

(中略)

親神は、この約束により、人間創造の母胎としての魂のいんねんある教祖を、予めこの世に現し、宿し込みのいんねんある元のやしきに引き寄せて、天保九年十月二十六日、年限の到来と共に、月日のやしるに貰い受けられた。(典三章)と書いてあります。

つまり、教祖は、いざなみのみこと様の御魂を持っておられた方で、前もって前川家に産まれ出しをさせ、人間創造された場所Ⅱ元のちばのある中山家に嫁がせ引き寄せて、このたび、月日のやしるになされた。

天保9年その日は、たまたま偶然では

なく、人間創造の時から子数の年限Ⅱ九億九万九千九百九十九年経つたが故に、人間創造に当たつてのいざなみのみこと様に「神として拝をさせよう」という約束の下、天保9年10月26日に現われたということです。

●「神として拝をさせよう」から「世界一れつをたすけるために」に

九億九万九千九百九十九年経つたなら神として拝をさせようという約束ですから、当然、天保9年に現われた時には、もう神として拝をさせる旬であったはずです。

本来なら、神の生まれ変わりだといって拝をさせようと思いましたが、しかし、「世界一れつをたすけるために」というお言葉に切り換わってしまったのは何故でしょうか。

続いて、

かくて、親神は、教祖の口を通して、親しく、よろづいさいの真実を明かされた。それは、長年の間、一れつ人間の成人に応じて、修理肥として旬々に仕込まれた教の点晴である。(典三章)

<実行目標>人のたすかりを願ひましょう



おたすけ・お願いカード 集計：45,511枚

平成26年9月21日～10月20日

累計：500,950枚



と述べられています。  
 つまり、天保9年までにも、既に成人をさせてやろう、陽気ぐらしをさせてやろうと、常にいろいろと教え仕込まれたことはある。それは何かと言えば、世界中にあるたすけ道・教えの道です。これら全ては、神名が違うだけでたすけてやろうという親心は何も変わらない、親神様が教えられた、私たち人間に対する修理 肥のたすけ道だったはずですよ。



お話し下さる大教会長様

ですから、本来なら、天保9年には、当然、もう陽気ぐらしの世界に立て替わっているだろうという思いがあるわけです。  
 とところが、今まで、世界中いろんなところに、旬々に応じてこのたすけ道を付けてきたのに、世の中を見たときに、親神様の望まれる陽気ぐらしに立て替わっているどころか、むしろ、それを媒体として人間同士がいがみ合い苦しめ合うという姿になってしまっている。

多くの道は、信仰すればたすかるが、信仰しない者はたすからない。だから、たすかるため、より信仰を深めるために、極端な言い方をすれば、人を殺してもという姿になってしまいました。  
 今、「イスラム国」というのが大変な問題になり、世界中で大きな脅威となっている。しかし、イスラム教の信者さんは、世界中にいっぱいいるが、その殆どは「人を殺しても」とは誰も思っていない。同じイスラム教なのになぜそういうことになるのかと考えてみると、これも欲の世界です。教えを自分の都合の良いように極端に曲げ、あたかも人を殺してもいい、それは正義だという解釈でやっているのがその姿です。  
 しかも、この「イスラム国」の特徴は、テロを起こしているイスラム教の信者は極わずか、殆どが海外から来た人たち。つまり、非イスラム教徒が集まってテロを起こしているのが実状ですよ。

日本の学生も参加するための渡航時に捕まったと報道され、この学生は就職に失敗したために、死にたいと思つて「イスラム国」に行こうとしたとも伝えられますが、それが現状ですよ。  
 実は、そういう人がたくさん集まっているということは、信仰とは全く関係のないところで、テロは起こっているのです。  
 つまり、信仰はしていても、親神様の思いとは違ふところで、人間が動いてしまつて姿があるわけです。

この姿を見たときに、これではいかん、これから本当のたすけ道を付けてやろうというお言葉に切り換わつたということが拝せます。

●天災は、心通りに御守護くださる世界

では、陽気ぐらしからかけ離れてしまった元は何かと考えると、そこには、たすかるべき道筋の、その通り方、あるいは心の持ち方が、どこかで違つた部分があつたのではないのでしょうか。

それは何か。神さえ信仰すればたすかるから信仰する、いわば、我が身・我が家のたすかりの信仰でしかなかった。

改めて考えると、銘々一人がたすかるための信仰そのものは、悪いわけではなく、何も問題はありません。しかし、自分がたすかるために、他の人はどうなつてもいいというような思いの信仰で

あつたなら、それは大きな問題だということだ。

(人間というものは、神のかしもの・かりもの、心一つが我が理

明22・2・4

と教えられるように)正しく心一つが我がの理であつて、「心通りに御守護くださっている世界」だということを、思案しなければなりません。

今までの「信仰」というのは、どちらかという「神の思う通り」ですから、神の言うことを聞かなかつたら滅ぼされてしまう、罰を与えられるというような思いの人が多かつたでしょうが、「神の思い通りの世界」ではなく、「心通りに御守護くださっている世界」だということです。

いろんな身上や事情・あるいは天災・災害が起こってくるのは、すべて、それぞれの人間の心通りに働いている結果だということです。

「たすけてくれ」とお願いすればたすけてはくれませんが、「自分さえ」という心であるなら「自分さえ」のたすかりにしかならない。「(自分は)たすかつて他はどうなつても構わない」ということになれば、「他はどうなつても構わない」という姿になる。それが、言わば「天災」ではないでしょうか。

そうして「自然」に現われる姿も、自分とは直接関わりがないとしても、一人ひとりの心の理の現われだとするなら、「自分以外に対する思い」がそこ(自然)に現われているということではない

でしょうか。

このたび、18号・19号と大変大きな台風が来ましたが、被害が少ないようなコースになり、日本本土上陸のころには勢力が衰え、被害が少ないように御守護くださった。

(人間の)心通りに働いても、大難は小難にしてくださっているのに、(人間には)その理が分からない。

「台風は反ってくれた。被害が少なくて良かった。」と、反省するどころか、相変わらず「自分さえ」という心遣いになってしまっている。

我が身上・事情なら、我が心の思案をすればいいでしょうが、天然自然の災害については、今度は、自分自身が人に対してどういう心を遣つてるのかということまで合わせて思案をしなければいけません。

地震や台風も段々に大きくなりつつあるということを考える、自分さえよければという人が多くなっているのではないのでしょうか。

「自分さえよければ他はどうなつても構わない」という人が増えるからこそ、「どうなつても構わない」というような理が、天災という形で現われてきているのではないのでしょうか。

「直接、被害がなかったら、私は関係ない」ではありません。現われてきている姿そのものが私たちの心通りの世界であり、親神様の残念・立腹

の姿だということをしっかりと思案しなければなりません。

改めて申しますが、残念・立腹と仰るのは、「私たち一人ひとりの心に残念の理があるから残念を現わしている」・「言うことを聞かんから罰として現わしている」ではありません。「心通りに働いたら、そういうものを現わさないわけにはいかない」・「私たち一人ひとりが天災に現われるような心を遣つている」のが残念なのです。

●「一れつきようだい」なら「たにとゆうわさらないぞや」

元の理のお話して、「をや(親)」ということを教えられました。人間創造の理の話ができるのは、正しく「親」だからです。

「をや」ということ、私たちは「一れつきようだい」だということを教えられ、

(せかいぢういちれつわみなきよたいや)

たにとゆうわさらないぞや 十三・43  
と教えられました。

今、世界には77億人いるといいますが、77億の一人ひとりが、自分自身のたすかりのために信仰すれば、もちろん77億の一人ひとりをたすけてくださいます。でも、そのたすかりは、我が身我が家のたすかりですから、親神様のたすけも77億分の1ではない。

知り合いなら何処の誰かは分かりますが、ちよつと離れば顔も知らない何処に住んでいるかも分からない↓知らない人は赤の他人↓だからその人がどうなろうと私には関係ない、この信仰によって我が身・我が家さえたすければ——というような気持ちになっているとするなら、それは、今までの信仰と何ら変わりません。

しかしながら、この77億人、皆が(一れつきよ)うだいの理に目覚めて、自分のたすかりよりも、自分以外の77億の人のことを自分以上にたすけてくれと、一生懸命神様にお願ひしたらどうでしょうか。——「心通りの世界」だと教えられます。77億の人間が77億のたすけを願うわけですから、当然、77億×77億のたすけをこの世に現わすしかない、つまり、陽気ぐらしの世界に立て替わるということではないでしょうか。

だからこそ、「このたび、世界一れつをたすけたい」といって現われられた。

一人ひとりをつたすけたいとは仰っていません。心一つの理ですから、一人ひとりのたすけの場合も、正しく一人ひとりの心遣いの理によって世界一れつをたすけていかなければならないのです。

そこに「世界一れつをたすけたい」というお言葉の大きな意味があるのではないのでしょうか。

改めて、立教の元一日に込められた思い、「世界一れつをたすけたい」というお言葉の意味を、

共々に、嘯み締めて、心に置いて、これから歩まなければなりません。

### ●正に今、人のたすかりを願う旬

正しく今、教祖130年祭に向かう三年千日仕切つての旬——親神様の残念・立腹を晴らし、陽気ぐらしに向かうための大切な旬——「世界一れつをたすけたい」という親神様の思いをくんで、我が身・我が家のことは置いてでも、この3年間は人のたすかりのために心を遣い身体まなかを使うと

いって、私たち自らが動いている、その最中まなかです。立派なおたすけを、出来る人もあれば、なかなか出来ない人もいます。皆が同じおたすけをしようというのではありませんが、今繋がっているよふぼく・信者、一人ひとりが人をたすける心になつて、少しでも親神様・教祖にご安心していただく年祭活動にしたいという思いの上から『論達第三号』を「発布され、そして、その論達に沿う形で、大教会としては「成人目標」を皆さん方にお渡ししています。

3年間同じ歩みではなく、1年目より2年目、2年目より3年目と、3年間掛けて「世界一れつをたすけたい」という親神様のお心に少しでも近づく歩みにしたいということで、1年ごとに成人目標を掲げて歩んでいる、本年はその2年目です。

「成人目標」をご覧いただいて、もうすでに印を付けて歩くべきだと思われていますが、2年目ですよ!?! 2年目の分を付け加えましたよ!?! 積み重ねの年ですよ!?! 1回見ただけで終わってませんか? あるいは、その中の「おたすけ・お願いカード」だけやればよいと思っていないですか? もちろん、全部の項目をやれということではありませんし、やらなければならないわけでもありません。

でも、「これもおたすけになる」・「これもおたすけに繋がる」・「これも人だすけに繋がる項目なんだ」ということを知ってもらって、自分が出来る項目を増やすことによつて、より成人の歩みを早めるところに、この「成人目標」の意味があるわけですから、全部はしなくても結構ですが、「1回、印を付けたから、もう終わり」ではなく、少なくとも月に1回は、成人目標の一覧表を見て確認し、実行出来なかったところからやり直しても結構でしょうし、あるいは、これもやってみたいということが見つければ、また、それを自分でチェックして、やるということが必要ではないかと思えます。

どうでしょうか? あちこちでお尋ねすると、「毎日見えます」という人はまず殆どいませんし、「たびたび見えます」という人もなかなか少ないというのが現状だと感じます。

とするなら、今からでも遅くはないので、「毎月一日」成人目標の日」と決めるなどして、月に1回は一緒に見て確認し、書いてない項目があれば自分で書き足しても結構ですから、そうして少しずつでも増やして、より一層成人の歩みを進めたいと思います。

「成人目標」は一家に1枚ではなく、一人に1枚ですから、一人ひとりが自分の成人に合わせてチェックを増やしなから、3年掛けてより一層成人を高めたい、そのための成人目標一覧表であるということも、もう一度、皆さん方には心に置いてつとめていただきたいと思います。

そして、その中の「おたすけ・お願いカード」、これも、自分が書いて出すだけではなく、一人でも多くの人にこれを薦めて共々にたすけ心を遣っていただけのようにつとめたい。

ある教会においては、お道とは関係のない友人・知人・子どもにも薦めて、そのお陰で、教会に通う人が出来たと聞きます。

縁遠くなったよふぼく、信者の丹精に、「おたすけ・お願いカード」や「成人目標」を利用している教会もあると聞きます。

今、信仰している人だけでなく、誰にでも薦めやすい「おたすけ・お願いカード」です。他宗教の人にも薦めておられる方もいると聞きます。

自分が書く枚数を増やすだけではなく、一人でも多くの人に薦め、一人でも多くの人が人のたすけを願う心になればなるほど、77億分の1が、77億分の1万・2万・3万・・・と増え、(人のたすけを願う人が)増えれば増えるほど、より陽気ぐらしの世界に近付くということです。

どうぞ、この「おたすけ・お願いカード」を大いに利用しながら、共々に教祖年祭に向かってたすけ一条の歩みを進めましょう。

この年祭活動は、正しく、立教の思いに一番沿った成人の歩みであるということ、これを、改めて心に置いていただいて、1年3ヶ月先の年祭に向かって、今からでも遅くはありません、共々に



声高らかに神名流し

勇んでたすけ一条の道を歩ませていただきましたよ  
う。  
《以上要約》

### 目標を持ち

### 喜びのある信仰を

委員部長後継者講習会開催

婦人會

婦人會笠岡支部(上原きよ)支部長では、10月23日、大教会で委員部長後継者講習会を開催、12人が参加した。

午前9時半、開講。上原同支部長のあいさつの後、大門駅前から大教会まで神名流しを行い、若く勇んだ声を秋空に響かせた。

昼食後、2人の感話、2班に分かれてのねりあい、大教会内の清掃ひのきしんを行い、午後3時、閉講した。

参加者は、支部長のあいさつを受け「自身の信仰を見つめなおし、目標を持って歩ませていただくこと。自分の喜びとしてこの道を信仰していくこと」を胸に、それぞれ帰路についた。



お帰り講話

布教部(田中隆之部長)では、10月25日午後7時から詰所3階講堂で白熊繁一先生(郡山大教会部属・中千住分教会長)を講師に迎え「お帰り講話」を開催、宿泊者など約250人が参加した。

先生は、夫婦で里親・教会での乳幼児受託、そして保護司という立場から、青少年との関わりの中で感じる教祖の温もりと、育ててくれた両親について話された。

講話の中で11年前に3歳の男の子を「おかえりなさい」と夫婦で抱きしめ受託して、その日から心に残る景色を、中学3年生に育つまでを書き留

**「お帰り講話」開催**  
10・25 詰所  
**布教部**

最後に、自身が世界の治まりを願い、毎日出会う人との縁を喜び、おたすけや子供達の育成に、夢と希望を持って日々取り組ませて頂きたいと締めくくられた。

「そのためにはおたすけをしつかりやりなさい」、「教会をマイホームにしたらいかん」という事を教えられたように思うと振り返られた。

その後、父親が出直し、その歩んだ生き様の中で「親神様の不思議なご守護の世界を味わいなさい」

め、それが「家族を紡いで」という1冊の本になった。先生は、親神様から「この子を頼むよ」という声に喜んでお応えし、お道ならではの絆を大切に、家族同様に教会生活の日々を送られ、その他にも障害を持つ子供たちや、児童相談所からの依頼で、緊急一時保護で預かる少女などの事を話された。

また先生の父親の話しの中で、父親は事情ある教会に養子として入り、病弱でありながら人助けの道を選びいつも教祖のお言葉を頼りに、切り詰めた教会生活の中で布教に徹し、先生が高校生の時、神殿普請のご守護は大変不思議に思ったと当時の記憶を辿りながら話された。



第90回青年会総会にて

親睦を深めた。その後は詰所にて会食を行い

進力となる気概をもってあらきとうりようの使命を果たすよう要望された。

笠岡分会の参加者は、式典後、東札拝場にて一年の御礼と決意を込めておつとめをつとめた。

10月27日、「5代会長就任記念おやさどふしん青年会ひのきしん隊結成60周年記念第90回青年会総会」が、本部中庭で開催され、笠岡分会からは全ブロックより約50人が参加した。先ごろ青年会5代会長に就任された中山大亮様は告辞の中で、「勇んでにをいがけ・おたすけに邁進しよう」と呼びかけられた。また、真柱様は、年祭活動の推進力となる気概

**第90回青年会総会**  
**青年会**

# 障子張り替えひのきしん実施

11月3日・4日

管理部

管理部(武内清明部長)では、11月3・4の両日、会長宅・客殿の障子張り替えひのきしんを行い婦人会など約70人が参加した。男性が会長宅・客殿の障子を取り外し婦人会は紙を取りやすいように棧に水をかけ、次々と紙を剥がし乾いた物から貼り付けを行った。4日も引き続き貼り付け、2日で無事終了した。



障子張り替え

# 教会おとまり会の報告

## 芦常隊

実施日 26年8月10日～11日

参加者数 少年会員5 育成会員5 合計10

内容 朝づとめ、夕づとめ、教会・教会隣グラウンドゴルフ場の草取、親神様・教祖のおはなし、食事、お風呂。

感想 台風の後だったのでお泊り会が出来なにかと心配したが、お天気が良くなり、小さな子供達(少年会員)もおつとめ・神様のお話を聞いてくれました。来年は目標を考えて参加してくれる少年会員が多くなりますよう。

## 西伯隊

実施日 26年8月17日～18日

参加者数 少年会員5 育成会員7 合計12

内容 朝づとめ、夕づとめ、ひのきしん、神様のおはなし、教祖のおはなし、お風呂、ゲーム、食事。

プログラム

8月17日

・夕づとめ 6:15 おつとめ参拝。

## 吸江隊

実施日 26年8月18日～19日

参加者数 少年会員10 育成会員11 合計21

内容 朝づとめ、夕づとめ、ひのきしん、神様のおはなし、お風呂、ゲーム、どこかへ出かける、食事、ボーリング場。

感想 会長夫婦不在の中、高校生がいてとても有難かった。

## プログラム

8月18日

15:00 受付。

30 開会、会長あいさつ。ゲーム(16:50終了)。

17:10 写真。

40 おつとめ練習。おつとめ。

・おつとめまなび よろづよ八首、おてふり。男鳴物・女鳴物練習。

・前会長様より本多家入信の元一日のお話しを聞かせて頂いた。

・高校生4人がゲームを指導、皆で楽しんだ。

・夕食 7:00 食事の用意ひのきしん

8月18日

・朝勤め 6:00 掃除ひのきしん、おつとめ参拝、おつとめまなび。終了。

18:00 食事  
 19:00 花火  
 20:00 風呂  
 8月19日

7:00 起 床。  
 おつとめ。プレゼント。  
 ひのきしん。  
 20 ひのきしん。  
 50 食事。後かたづけ。  
 8:00 終了。御礼。  
 9:00 ボーリング出発。  
 15 解散。

**感想** 婦人会の皆様には、シーツ洗い・ふとん干し・食事など、細やかに子どもの世話をしてくださり、誠に有り難うございました。子供達皆が、立派な用木に育つ事を願って居ります。

▼笠尋隊

実施日 26年9月12日〜13日

参加者数 少年会員6 育成会員3 合計9

内容 夕づとめ、ひのきしん、お風呂、ゲーム、食事、花火、おつとめ学び(鳴物)。

**感想** 子供たちは鳴物にとっても興味を持ち、おつとめ学びは予定時間をオーバーするほど熱心に習うことができました。

▼芦田川隊

実施日 26年9月27日〜28日

参加者数 少年会員2 育成会員3 合計5

内容 朝づとめ、夕づとめ、神様のおはなし、お風呂、食事、花火。

プログラム

9月27日 18:00 集合。

15 夕づとめ、神様の話し。

45 花火。

19:00 入浴(銭湯)。

20:00 夕食、片付け。自由。

23:00 消灯。

9月28日

6:15 起床、洗面。

30 朝づとめ。

7:00 朝食、片付け。自由。

11:00 解散。

**感想** 子供の友達が泊まりにくることになり、急ぎよ、お泊り会にしました。全く準備をしていなかったの、逆に、普段の教会、「ありのまま」の教会を見てもらえたかな、と思います。

▼笠岡隊

実施日 26年10月17日〜18日

参加者数 少年会員23 育成会員9 合計32

内容 朝づとめ、夕づとめ、朝食、お楽し



笠岡隊

み行事(人間すごろく)、花火、ゲーム、ひのきしん、パフエ作り、奥様のお話し、入浴。

感想 子供おちばがえりに参加した子供と、初めて教会に来た子供が半々位で、皆が大変喜んで帰ってくれました。来年は中学3先生が、スタッフとして来てくれるのを楽しみにしています。

### ▼川島郷隊

実施日 26年10月18日〜19日

参加者数 少年会員11 育成会員7 合計18

おつとめ、お話し、鳴り物練習、ようかいウオッチ

折り紙、

内容 お誕生会、

防災訓練、近所の清

掃ひのきしん、丸山

公園ハイキング等。

プログラム

10月18日

18:00 受付、夕食。

19:00 夕づとめ。

鳴り物学

び、お話し、

妖怪ウオッチ

チの折紙。



川島郷隊

感想

12:30

解 散。 盛りだくさんの内容で楽しく充実し

12:00

集合。教会へ帰る。

9:00

こう。ランチ 丸山公園へ出発。自然学習、秋を描

8:00

近所のひのきしん。

7:00

朝食、片付け。

6:30

朝つとめ。

6:00

起床、洗面。

10月19日

22:00

お休み行事、消灯。

17:00

おやつタイム。

17:00

フリータイム。

ていました。しかし、お泊まり会をするには寒いシーズンで、毛布や寝袋がたくさん必要になり大変でした。

## こころの詩

笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございませう。

▼天理教道友社発行『天理時報』より転載

▽11月9日付「時報歌壇」

・芦品分教会教人 金谷眞佐代さん

四階の戸を開き放ち月蝕を

見つつ食べた月見うどんを

・海松ヶ岡分教会よふぼく 藤井光子さん

ほくほくの粟ご飯の炊けし香よ

私の頬に秋の近づく

▼養徳社発行『陽気』誌十一月号、「道柳」より

転載。今回の課題は「口」。

▽秀 詠

・東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

一口が命をつなぐ守護の種

### ▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

# 談話室



「たんのうは人類に残された唯一の道」  
 「たんのうは水の理、天の理」  
 「人類を救う道はたんのうより他になし」  
 「人間にはたんのうより他に道はなし」

稲富士分教会 須毛田 英 尋

寒い冬暖かく、暑い夏を涼しく、少ない作物をより多く大きく美味しく、遠い所へより早く、手間暇かけずすぐ食べられ、すぐ住めて等々、人間の快適生活をとめどなく発展させていく事が企業の存続の条件となった現代、人々は気付かないうちに、異常な豊かさや世の中の移り変わりの早さの中ではかえってゆったり喜ぶ事も許されず、豊かさとはゆとりのある状態と言うのだが、競争社会であるがゆえ追いつけられ、イライラといつも豊かであるにも拘わらずゆとりがなくなつたのは、あたかもミイラとりがミイラになつた如く暮らすはめに陥っていないだろうか。そして国も自治体も企業も家庭もいつバランスを失うか戦々恐々とし、明日の事さえ心配で心身のバランスを

失う人が多い。そればかりか大量生産、大量消費から発生する膨大なエネルギー、即ち火の力が自然界のバランスを狂わせ、自然は火水風のバランスから成り立っている事から、火が強くなれば水、風の力が強くなる事は自明の理。地球温暖化が海水温度を上げ、それで集中豪雨、大型台風となり全ての生物に悪影響を与えるようになった。

この世はバランスの上に成立している。収支、経営、左右、投打、新旧、栄養、心身、夫婦等々のバランス。夫婦もつり合いが大切。例え不足に思える相手でも、いんねん上、自分につり合っていると納得することだ。構造物の設計に当たっては、物理の釣り合いの条件から展開していく。簿記も借方貸方の数字がピタリと合っていないければならず、会社の資産負債状況を表す手段としてバランスシートというものを作らなければならぬ。

バランス即ち平衡は水の理と思える。水平器によつて水平、垂直を測り、水平線は、どの表面でも高さは同じである。人も飲み水により心を落ち着かせる事ができる。水と神とは同じ事。神様もどうしてもバランスを取ろうとなされる。即ち、いんねんがあれば身上・事情として現さないとはいえない。よつて、成つてくる事をたんのうすれば、バランスを取つた事になる。たんのう程、受け取つて頂ける理はないと言われている。どんなに暑く

寒く貧しくつらくとも結構、結構とたんそうすることが心が澄んだと言える。自然を自分に合わせるのではなく、自分を自然に合わせる事がたんのうだ。世間では自分の思い通りになる事が幸せと、自由をはき違えた近年の風潮は欲と競争と争いの世に変わった。たんのうという一石を投じ世の荒波をさざ波に変えよう。たんのうこそが人類が助かる理である。たんのうが永らえる理と悟れる逸話がある。それは「長者屋敷」にうたわれている。今となつては屋敷をこの世に置き換えし考えなければならぬ。経済発展とは聞こえはいいが、実はむごい弱肉強食になっており、自然界の弱肉強食はそれでバランスがとれているが、人間のそれは度が過ぎ、自分たちの住み家であるこの自然をも狂わせる程、競り合い熱に犯されている。たんのうという水でこの熱を冷ます事が現代の道の子のつとめに思えてならない。



## 亀田山分教会

### 創立百周年記念祭

宍道湖の汽水に浮かぶ嫁ヶ島、なだらかな丘陵の亀田山にある千鳥城。国立島根大学のキャンパスに近い、学園都市のその一角に、天理教亀田山分教会は位置します。

教会創立百周年記念祭を「立教一七七年一月五日に執行する」と、八年前の春季大祭に打出しされた高橋德行会長さんは、今、記念祭を終えて笑顔で話されます。

百周年には格別の想いを持って、取り組んできました。それは、記念祭のおつとめは「一人一役」を目指して、皆で声掛け合い力を合わせてきたのです。結果は、男性役割人数はピッタリ！女性役割人数は控えが出るほどまでに皆の心が揃ったのです。

教会を移転して二〇年、学園都市の中で新規の自治体が出来て十一年、地域を守る神様の存在を説いてきたので、当日は十五名の地域の方が未知の世界へ参拝者として来て下さったのです。それに続く子供達も参拝して、祭典に、余興にも楽しんで頂きました。少年会の妖怪ウォッチ、吹奏楽の演奏などの演芸発表なども多彩に、上級会長様始め、関係教会長さんの参拝も

頂き、大盛況で中身のある記念祭を勤められたのです。

高橋会長さんは、先代から会長職を引き継いだ時から、独自性を持って「発想・決断・行動」で通って来られたのです。自身にも、迷うな！迷ったら動け！駄目で元々……と、「しやんして心さためてついてこい すすはたのもしみちがあるぞや 五・24」を、心の支えとして、実行力を持って、皆を励まして来られたのです。その道中は、講社祭や事有る毎に提唱して、半ば強引ともいえる強さも必要だったし、それで足並みを揃える事が、徐々に出来たのです。又、自らは地域に溶け込み、自治会長やPTA会長に就任し、その中から、教会内外の子供の育成に心を傾けてきた(前号に掲載記事で紹介)しかし一長一短では無く、その都度苦慮しながら繋ぐ難しさを経験しながら、集大成されたのです。

強い言動の会長様の陰で、述懐される奥様のやさしい声は、云うに尽くせない日もあった事が伺えました。御両人の心の調和は、しっかりと方向を定め進まれる高橋会長さんに寄り添いながら、春の日差しのように、時には雨風の日も、共に目指す心は「記念祭のその日」に有つ

たと…感慨深く、目を閉じて御話を聞かせて下さいました。

云うまでも無く「大成功！」のうちに御開きを迎えられました。

翌日には、万歳三唱のご発声をされた自治会の長老から「余りにも居心地よく、楽しかったので、つついっ長居をして、しまいました。」とお礼の言葉が有ったことも…

亀田山分教会の百周年記念祭が、教祖百三十年祭への御土産と成った、証しではないだろうか。(かさおか編集掛員 西村彦一)



## 弓ヶ濱分教会

### 創立百周年記念祭

秋晴れの、はるかに秀峰伯耆大山を望む弓ヶ濱半島のほぼ中央にある、区画された団地に対角線上に建つ教会がひと際目立ちます。

六代会長森川弘志会長さんは十月十九日、上級、三代幸米府分教会会長様・奥様の御臨席を賜り、記念祭を執行されました。祭文奏上の後に、



上級会長様の祝辞を身が引き締まる思いで拝聴し、新たな門出への心を定め、記念祭のおつとめを勇んで勤められました。この日の為に練習に練習を重ねて、緊張みなぎるおつとめは、鳴り物も調子良く、際立って目に飛び込んできたのは「少年会員」が叩く太鼓に、すり鉦！近い将来必ずや用木と成り教会の重鎮となるその日を…正に、百年の歴史には、続いてこそ道！



の例えにありますように、森川会長さんの心意気が伺えました。きっと教祖も、ほほえましく御喜びで、お手を叩いて下さって居るに違いな…と感ぜずには居られませんでした。

当日の椅子席には、自治会副会長二人、自治会顧問、納税組合長、民生委員、老人会長、前自治会連合会長、前民生委員地区会長、いきいきサロンメンバー、公民館長、地区福祉会長の各会代表が参拝されて、祭典を真剣に見守って居られました。又、現在森川会長さんは、地区民生委員、自治会長、連合自治会長、等を務めて地域世界への声掛け、奉仕貢献を意欲的に続けて居られます、上級教会でも重責を担い、持ち前のバイタリテイで世界たすけに真実一路尽くされて、地域の人望も厚く、横の繋がりに活路を拓けて活躍されるスーパー会長さんであります。家族での活動は孫さん達にも参加させておとまり会も和やかに出来る、先樂しみな弓ヶ濱分教会の「教会創立百周年記念祭」は、おつとめ後は、地域の公共施設で「御祝いの会」を賑やかにされました。

教会序列は、島根分→米府分→弓ヶ濱分と繋がります。

(かさおか編集掛員 西村彦一)

## 秋季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ  
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には「月日にわにんけんはじめかけたのわ よふきゆさんがみたいゆへから」とこの世と人間をお創造はじめ下され天然自然の御守護と匂々々のお仕込みを賜り 陽気ぐらしへとお育てお導き下さつております事は誠に有難く勿体ない極みでございます

しかるにその親心を忘れ 一列兄弟である事を知らずに銘々勝手気ままな心遣いをするだけでなく 兄弟どうしのいがみ合い苦しめ合い又自ら身上や事情に苦しむ姿を哀れと思召され「このたびは神がをもていあらはれてなにかいさいをといてきかする」と天保九年十月二十六日教祖を月日の社とお定めになり 此の世界だすけの道をお付け下さいました 以来教祖直々にお引き寄せ頂きお育て下さいました私共は 人間社会の大きな変化に感じながらも「世界一列救げたい」との親心にお縋りしつつかしものかりものの御恩報じ一筋に日々朝夕に御礼申し上げたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております

分けてもこの月二十六日は立教の元一日に当たりおちばでは秋の大祭が執り行われますので その理にならにお許しを頂いて 此の笠岡大教会にても只今からおつとめ奉仕人一同 喜び心たすけ心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをとめて秋の大祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が日頃の御高恩に改めて御礼申し上げると共に四万五千五百十一枚のおたすけお願いカードを通して兄弟姉妹の救かりを願う皆の真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて世上で起こる出来事はより悲惨さを増し本来助け合うべき親子兄弟でさえ傷つけ合う姿が増えていきます 又地震や台風等による自然災害はより巨大化し犠牲者も増えていきます 心通りの守護とは言え せつかく大難は小難に小難は無難にとお働き下さつてもそれ以上に心の荒廃が進んでいると思われ 一人でも多くの人に親心に気が付いて貰い 共にたすけ一条の歩みを進めて頂く事が急務と思われ 今月は直轄教会に大祭参拝をさせて頂き 教祖百三十年祭に向けての成人目標の更なる徹底を図らせて頂きました 笠岡に繋がるようばく信者が一歩一歩におたすけお願いカードを通して一回でも多くたすけ心を使い成人目標の実践項目を確認しながら 一人一人自分が出来るたすけの実践を行い 一人でも多くの人にその理を映して行く所存でございます

何卒親神様には 教祖年祭に向け残された一年三ヶ月 救かって貰いたい一心から 何でもどうでもと成人の歩みを進める皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 願う心の誠の理に尚も自由の御守護を賜りかしものかりものの理が心に納まり たすけ一条に邁進する人が増して 有望み下さいます 陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお願いの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 大教会だより

◎ 教会長資格検定講習会修了者

立教177年11月19日終講  
上 備 田 渕 忠 明



今年、八月二十日未明、広島市内を襲った集中豪雨による大災害！テレビのニュースを見て早朝から関係のあるところに安否確認の電話を入れました。幸いにも関係者全員被災せずに御守護戴いていて安心したものの、テレビに映し出されるあまりにも悲惨な光景に胸詰まる思いがしました。私も支部の会計をお預かりする上から支部長・ひのきしん部長の先生方と災救援・義援金等協議しながら、教区の指示を待ちました。数日後、教区災救援からの要請を受け、我が支部からも数名の方が現地へ赴いて下さいました。その陣頭指



教祖は、たすけ一条の道として、つとめを教えられた。

にちにおちにはやくつとめをせきこめよ  
 いかなるなんもみなのがれるで (一〇 19)  
 とのよふなむつかしくなるやまいでも  
 つとめいちちよてみなたすかるで (一〇 20)

つとめは、人間世界創造の奇しき守護を、よるつたすけの上にお見せいただく、根本の道である。教祖五十年の道すからは、このつとめの急ぎ込みにほかならない。教祖年祭のもど一日もまた、ここに由來する。仰せ通りのつとめをするという一事に、幾多の苦心が払われて来た道の歴史に照らす時、有り難い今日の道である。感謝の真心を捧げつつ、一手一つ、つとめに徹する姿を以て、親心に応え奉らねばならない。

思えば、教会の初まりは、つとめ一条の実現を心に定めて、許されたものである。ちばの理をうけて、真剣なつとめに、勇み心の真実を捧げ、陽気世界実現の守護を祈念するのが、教会の使命である。かくてこそ、たすけの理をいただいて名稱の理は発揚され、教会内容はおのずと充実してくる。心定めを果たすという一点に心を尽くし、仕切つてその達成を志すのが時句の急務である。鳴物なりと出しかけよ、とお言葉を押し、道眞の完備を急いできたが、人を寄せ手を揃えることは、つとめ完成に欠くことのできぬ要であり、教祖の終始心をおかけ下されたところである。教祖は、さづけを渡しよふほくを育て、人々の成人を促しつつ、つとめの模様立てを進められた。

これから入いたみなやみもてきものも

いきてをどりてみなたすけるで (六 106)

さづけの理は、今広く我々にも許されている。しかも、親神は、常に先廻りしてお待ち下されている。ひたすら、親に凭れて足を運び、真心こめて理を取り次ぐ時、不思議なたすけをお見せ下される。まことに心強いかぎりである。よふほくたるものは、このことを心に刻み、挙つてさづけの取り次ぎに勇み、おかけいただく大いなる期待に応え奉らんことを切望する。さづけを取り次ぎ、たすけ一条に励む時、心のほこりはおのずから払われて、陽気つくめの心と入れ替わり、人の心は成人する。成人は、理の御用を通してこそ、果たされる。

成人とは、日々年々、親の思いに近づぐことである。それは、不断の着実な歩みの中から、句に芽生え実を結ぶ。教祖の年祭を句として、心のふしんを形のふしんに託し、仕切つて成人を願つて来たのも、この故にはかならない。おやさどふしんは、教祖の御理想を体して、誓つて勇躍した心のふしんであり、父祖の信仰と切なる願いがこめられている。これを継承して、倍する努力を続けることが、心の成人をお見せいただく道であり、ひいては、その真実は、縦の伝道の実をも招来する。

みかぐらうたに、  
 九ツ ニこまでついでにい  
 十ト とりめがさだまりた (一下り目)

と教えられる。とりめが定まるとは、まさに、末代続く陽気ぐらしの世界である。その守護は、こまでついでにい、と手引かれる親神の導きに、心を定めてついでに行く時いただける。成つて来る理に耳をすまし、教祖の面影を求めて身近に教祖を拜し、三年千日、ひながたの道